

情報連絡員報告・2月分

製造業の売上高DIが3か月ぶりにマイナスへ

～ 鋳物、缶、ネジ業界等で原材料の値上げを懸念～

< 東京都中央会 >

2月の情報連絡員報告によると、製造業の売上高DIが3か月ぶりにマイナスに転じ、収益状況も悪化の度を強める(-21.5)など、製造業の数値の悪化が気になる内容になった。今後についても金属製品の業界から原材料の値上げ懸念の声が寄せられていることから不安を感じる。東京都が開設する「新銀行東京」に対する期待の報告が寄せられた。中小企業の資金調達の強い味方だけに開業を鶴首するところである。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

< 特記事項欄より >

鋳物製造= 4月より原材料である鋳物用銑鉄の値上げが大手メーカーより発表されます。コスト上昇に見舞われる。

18 缶製造= 第4次鋼材値上げが4月から行われることになっており、非常に厳しい状況となっている。

弁当製造= ノロウイルスの食中毒によりカキの輸入がストップされ、弁当屋のメニューからもはずれている。また、学校給食の受託など、行政から民間への委託で弁当業界も少しは道が開けてきたようだ。

和服製造= 2月は針供養や国家検定と行事が重なり業界として多忙であった。

帽子製造= 昨年の猛暑により春夏物は順調に注文が入っています。ヤング層にも帽子をかぶる習慣が定着し、今のところ活気があります。早く春の陽気になることを祈っています。

建具製造= 売上は前月より増加したが、前年同月とほぼ同じ水準である。年度末の景気好転を望むが期待感は薄い。

ラベル印刷= 今年に入ってから、かつてないほどの落ち込みである。

印刷業= 個人情報保護法の施行を前に、対応に組合員の関心が高い。

塗料製造=原材料の値上がりが一時過熱したが現在は値戻しが一部で始まっている。しかし、やはり全般的に値上がり傾向にあることは否定できない。

生コンクリート製造=都心の再開発工事向けの出荷が一段落し、前年同期比10%減となっている。

金属熱処理=年初より受注の一服感があったが、2月に入りまたフル稼働に戻った。しかし、残業、休日出勤、消耗品の増加等が収益を圧迫している。また、人材不足が顕著になってきた。人材派遣会社からきた人材は質が良くないようだ。

電線製造=2月の荷動きは総体的に弱含みで推移している。品種別では主力の機器用電線はデジタル家電の需要減退、それに伴う在庫調整により全体的

に軟弱化している。一方、通信用ケーブルはマンション建築や商業店舗の改装・増設、地域再開発プロジェクトなどがあり売上高は前年比2桁増となっているが、品種によりバラツキがある。

<要望事項欄より>

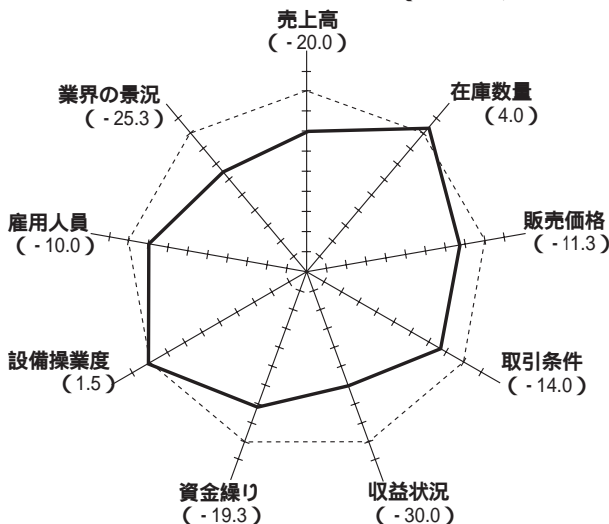
* 度重なる鉄・石油製品原材料の値上げに、一日も早い政策を実施してもらいたい。 [天幕雨覆製造]

* 原材料価格上昇対策、デフレ対策 [ネジ類製造]

* 銀行の貸付けはますます厳しくなっている。東京都の新銀行の1日も早い開設を望む。 [時計宝石眼鏡小売]

* 清掃事業の都から各区への完全移管について検討が続けられており、当組合からも23区が一元的に実施すべく要望書を提出している。 [廃棄物処理]

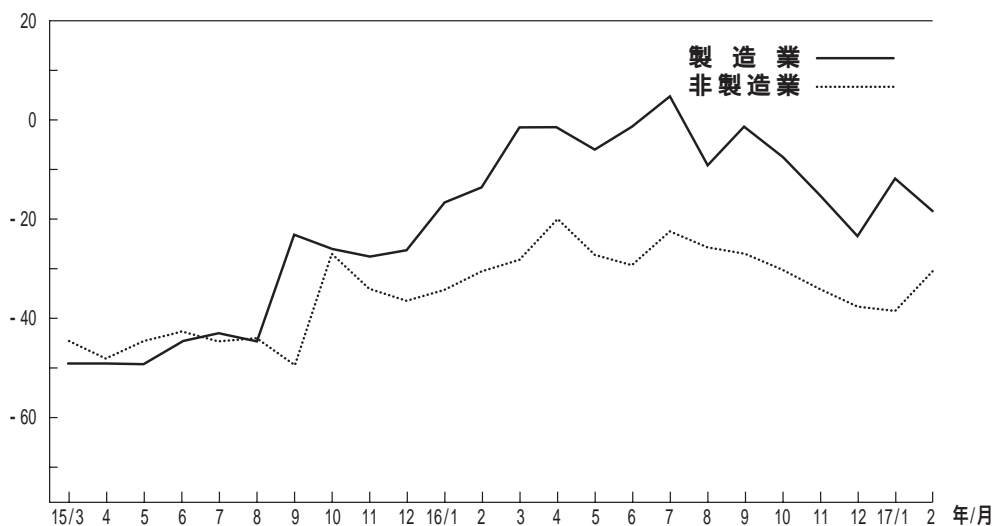
2月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

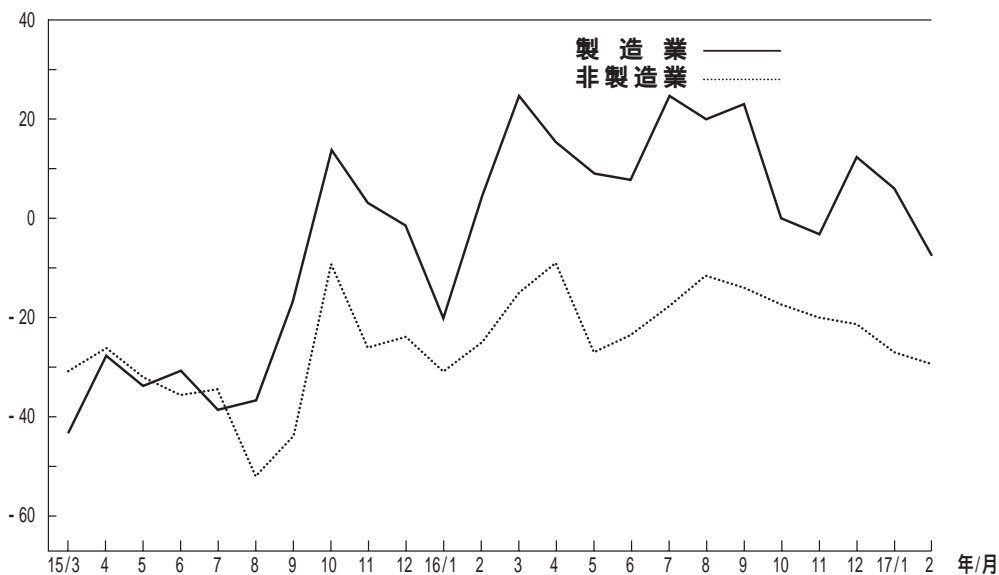
業界の景況DIの変化 (H15.3 ~ H17.2)

(前年同月比)



売上高DIの変化 (H15.3 ~ H17.2)

(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。